

## 県民健康意識調査における健康感と歯の健康感との関連

○芝田登美子<sup>1)</sup>, 石濱信之<sup>2)</sup>, 森田一三<sup>3)</sup>, 中垣晴男<sup>3)</sup>

<sup>1)</sup>三重県健康福祉部, <sup>2)</sup>三重県南勢志摩県民局保健福祉部, <sup>3)</sup>愛知学院大学歯学部口腔衛生学講座

要約：三重県では県民健康づくり計画「ヘルシーピープルみえ・21」の中間評価を行うために、県民健康意識調査を行った。その中で健康像と関連する項目において、歯に関する健康感の位置付けを調べた結果、関連係数はそれほど大きくはないが、全ての年齢層において歯に関する健康感、自分が健康であると考えた健康感に多く関係することが示された。（索引用語：県民健康意識調査, 健康感, 健康指標）

口腔衛生会誌 55 (4), 2005

### 目的：

本調査研究の対象地域である三重県では、「健康日本21」の都道府県計画である健康づくり総合計画「ヘルシーピープルみえ・21」を平成13年3月に策定し、家庭、地域、学校、職場など社会全体で住民の豊かな人生を実現する健康づくりを進め、その計画を支える法的基盤として「三重県健康づくり推進条例」を全国に先駆け制定し14年4月より施行している。本調査研究は県における総合的・計画的な健康づくり事業を推進するための基礎的調査研究として実施され、県民の健康づくりへの意識や行動を把握し、県民の目指すべき健康像についても検討を行った。このうち県民の全身の健康感における歯科の位置付けを明らかにするために本研究を行った。

### 対象及び方法：

平成16年6月現在に三重県内の市町村に住民登録をしている15歳以上の県民10,000人を無作為抽出し、質問調査を実施した。回収率は45.1%であった。「ヘルシーピープルみえ・21」では93の健康指標のうち、「健康であると感じている人の増加」を重点目標としている。今回の調査では「非常に健康」「健康だと思う」「あまり健康ではない」「健康ではない」の4段階で質問し、「非常に健康」と答えた人と「健康ではない」と答えた両極の人に着目し、どのような環境が健康感に影響を及ぼしているのか、クラメールの連関係数を用いて検討するとともに年齢別に整理した。

### 結果および考察：

各指標を健康感別にクロス集計し、「非常に健康であると感じている人」と「健康ではないと感じている人」の構成比が15%以上離れているものを県民が目指すべき健康像とした。歯科領域では「1日2回以上歯磨きをする」、「歯ぐきが腫れることがない」、「8020運動を知っている」という人が具体的なイメージとなる。他の領域では「朝、目覚めた時に十分に眠

れた感覚がある」、「日常生活の中でストレスを感じる事がほとんどない」、「イライラやストレスをいつも解消できる」、「自分の食生活に満足している」、「小さい頃から運動をすることが好き」、「日常生活の中で積極的に外出する」、「日頃の生活の中で充実感を感じている」、「地域活動や社会活動に参加したことがある」、「趣味がある」、「まちづくりに積極的に参加したい」という人である。また、年代別の健康感と他の指標間の関連をみると、クラメールの係数が0.3以上の関連があった指標は、10代13指標、20代13指標、30代12指標、40代14指標、50代12指標、60代19指標、70代以上13指標となっており、この調査結果から健康な人のイメージは次のようになる。10代は三重県の豊かな食材を誇りに思いつつ、毎日楽しく食事をしている。当然喫煙はしていない。定期的な歯科健診を受けている。20代～60代では、日頃の生活の中であまりいららせず、朝目覚めた時に十分眠れた感覚がある。特に働き盛りの30代～50代ではこうした睡眠・休養や心の健康についての満足感と健康感との関係が強くなってくる。70代以上になると生きがいがあったり、よく運動をしていたり、県や市町村の各種の計画策定やイベントなどまちづくりに積極的に参加する意欲が関係している。がん検診の受診率も高いというイメージになる。全体的に関連係数が大きい指標は「休養・ころろ」の健康に関する指標で、歯科の健康指標については関連係数はそれほど大きくないが、各年代で自分が健康であると考えた健康感に多く関連している。

### 結論：

どの年代においても、口腔に関する健康感と、県民が自分が健康であると考えた健康感との関連が見られた。「1日2回以上歯磨きをする」、「歯ぐきが腫れることがない」、「8020運動を知っている」という人が増加することにより、全身的にも健康であると感じる人が多くなることが示唆された。